

アクションプログラム

1 都市拠点の整備 【達成状況区分 3*】

【主な実施結果】

川崎駅周辺地区の整備

- ・北口自由通路整備については、費用負担に関する国のルール化策定（要綱策定）の遅れ等の外的要因から、目標としていた整備着手には至りませんでした。JRとの協議・調整を推進し、整備に向けた環境を整えました。
- ・川崎駅東口駅前広場再編整備、大宮中幸町線歩道整備、東西連絡歩道橋整備、川崎町田線及び西口広場整備が完成しました。
- ・中幸町ポケットパークは、用地取得には至っていませんが、調整は進んでいます。川崎駅北口ペDESTリアンデッキは整備スケジュールの見直しにより、関係者との調整を進めています。ミューザ・C地区連結ペDESTリアンデッキは、関係事業者及び関係地権者と調整を進めています。

新川崎・鹿島田駅周辺地区の整備

- ・鹿島田駅西部地区については、予定していた医療施設の撤退等により、権利者の同意取得には至りませんでした。今後も引続き権利者調整を実施し、早期に権利変換計画認可を取得し、施設建築（建物）と公共施設（道路、電線共同溝）の工事に着手します。
- ・新川崎地区整備事業については、地区計画の策定等による適切な民間開発の誘導により、地域生活拠点にふさわしい土地利用転換が進むとともに、計画していた道路と公園の整備が完了しました。また、鹿島田跨線歩道橋整備については、関係者協議等に時間を要したことで、遅れが生じていますが、平成22年度には工事着手できたことから、今後は進捗管理等を徹底し、平成24年度の完成を目指し、整備を推進します。

小杉駅周辺地区の整備

- ・平成22年3月13日に横須賀線武蔵小杉新駅が開業し、あわせて交通広場等関連する基盤施設の整備を行い、小杉駅周辺地区の拠点機能の強化や市民の利便性向上を図ることができました。
- ・3年のエリアマネジメント事業実施支援を通して、新しい住民自身によるコミュニティ形成やまちの環境保全、さらには安全安心なまちづくりへの取り組みを軌道に乗せることができました。
- ・再開発事業については、工事費の高騰や社会的な景気の後退などにより、小杉町3丁目東地区において組合の設立に至らない等多少の遅れはありましたが、各地区概ね明記した期日、内容どおりに目標を達成することができました。また、都市計画マスタープラン小杉駅周辺まちづくり推進地域構想を策定するなど、新たな開発の意向等に適切に対応し、機動的にまちづくりの誘導を行いました。

溝口駅周辺地区の整備

- ・ペDESTリアンデッキの整備を完了するとともに、駅前広場施設整備の方針決定、用地の取得を行いました。

宮前平・鷺沼駅周辺地区の整備

- ・地域の交通課題の調査・検討を行うとともに、交通環境改善の一環として、鉄道事業者とともに新たな改札口の設置に向けた取組を推進しました。また、平成22年度に策定を予定していた鷺沼駅前広場及び周辺交通環境改善に関する基本方針については、このような環境変化を踏まえ策定に取組むこととしました。

登戸・向ヶ丘遊園駅周辺地区の整備

- ・登戸土地区画整理事業は、建築物等の移転及び公共施設等整備について概ね順調に進捗し、成果指標として示す計画値の仮換地指定率（累計）が、59%を超えました。
- ・向ヶ丘遊園駅連絡通路等整備事業は、整備に伴い狭隘化する周辺道路等の対処方針の決定に向けた関係者との協議・調整に時間を要し、目標とした「施行協定」の締結には至りませんでした。周辺道路等の整備を含めた実施設計の取りまとめを行い、地元説明会を実施するなど、事業化に向けた環境を整えました。

アクションプログラム

新百合ヶ丘駅周辺地区の整備

- ・新百合ヶ丘駅北口エレベーターは、地域要望等を踏まえながら設計を進めるなどバリアフリー化を推進し、区画街路9号線については、拡幅が必要な区間について、安全に通行できる空間を確保しました。また、尻手黒川線（Ⅲ期）の整備に伴う駅周辺の交通流動の変化を把握するため、交通量調査を実施しました。

【課題と第3期実行計画における取組】

- ・「都市拠点の整備」は、概ね順調に実施されました。
- ・川崎駅周辺地区では、東口駅前広場再編整備等が完成し、今後も引き続き北口自由通路整備等を、関係機関と連携を図りながら推進していきます。
- ・新川崎・鹿島田駅周辺地区については、協議・調整を図るとともに工事を推進し、早期完成をめざします。
- ・登戸土地区画整理事業については、事業の早期完成に向け、登戸2号線の整備や集団移転などの取組の実施や検討を推進します。
- ・その他の各地区においても、地元や関係機関等と調整を図りながら引き続き整備を推進します。

2 広域交通体系の整備と交通ネットワークの形成 【達成状況区分 3*】

【主な実施結果】

道路整備プログラムに基づく幹線道路網の整備（街路・道路）

- ・小杉菅線（中原）、尻手黒川線（Ⅲ期）、世田谷町田線（高石）など6工区が完成し、尻手黒川線（Ⅳ期）、宮内新横浜線（宮内）及び菅早野線（下麻生）、国道409号（小杉）の4工区について事業に着手しました。今後も、土地収用制度や事業手法等の検討を行い、用地の計画的な取得による事業促進に努めます。
- ・既成市街地における事業用地の確保は困難を要しますが、関係部署と綿密な取得計画をたてた上で、調整を行ったため、概ね予定通り事業用地の取得を行うことができました。今後も厳しい経済情勢の中、新たな補助メニューや事業手法を模索することで、事業費を確保するとともに、道路整備プログラムに基づき、効率的かつ効果的に事業進捗を図ります。
- ・道路整備のあり方について、基本方針の局内素案を取りまとめました。また、道路整備プログラムについては進行管理を行うとともに、後期の計画見直しを行いました。

都市計画道路網の見直し

- ・廃止候補4路線（6区間）につきましては、2008年6月に行政方針である「都市計画道路網の見直し方針」を策定し、都市計画審議会に向けて、市民の理解を得るために説明会を実施するなど、適切な周知・手続きを行い、円滑に事業を推進することができました。さらに、手続きを進めるなか、地域住民より寄せられた課題解決に向け、関係部局と連携し、その要望に適切に対応することができました。

京浜急行大師線連続立体交差の推進

- ・産業道路の立体交差化完成を3年延伸し2013年度完成と修正しましたが、段階的整備区間の事業推進は概ね順調です。地域課題となっていた産業道路駅周辺の違法駐輪問題を沿線協議会を通じ、市民と協働して解決することができました。また、産業道路駅バスターミナル整備に伴って跡地利用範囲を変更するとともに、産業道路駅の駅舎設計の変更に着手し、利便性向上に努めることができました。段階的整備区間以降の整備方針を策定し、鈴木町すり付けの推進に向けて課題となっている国庫補助再算定については、国土交通省に対し地下式で整備することに合理的な理由があることを説明し、社会資本整備総合交付金を充当する方向で調整を図りました。また、川崎縦貫道路との交差協議については、川崎国道事務所、首都高と調整・協議を行い、交差に関する検討作業部会を立ち上げました。

JR南武線連続立体交差の推進

- ・関係機関と協議調整を行うとともに、検討案の精査を行い、深度化を図りました。

川崎縦貫道路の整備

- ・I期事業については、殿町から大師ジャンクション間が当初予定より早く開通するなど、目標を上回って達成することができました。

アクションプログラム

- ・Ⅱ期計画については、外環道東名以南との調整を含め、幅広く調査・検討を実施するとともに、関係機関と意見交換を実施しました。
- ・国道409号の街路先行整備等については、中瀬付近の電線共同溝工事が完了するなど、整備を促進しました。

川崎縦貫高速鉄道線の整備

- ・効率的、効果的な事業に向けて小杉接統計画の深度化を図るとともに、幅広い視点から事業推進に向けた検討を行うため検討委員会を設置し、6回の開催を通じて、現計画の検証や新技術の導入検討等を行いました。また、国や関連鉄道事業者等との協議・調整を実施するとともに、国や県の予算編成に対し要請を行いました。

【課題と第3期実行計画における取組】

- ・道路改良事業は本工事より先行した関係機関協議を迅速に行い、平成22年度内の完成をめざします。また、川崎縦貫高速鉄道線整備事業は、引き続き「新技術による縦貫鉄道整備推進検討委員会」を通じ、現計画の検証、新技術の導入など、幅広い視点で事業推進に向けた検討を行います。
- ・京浜急行大師線の連続立体交差化については、第3期実行計画期間内に、川崎縦貫道路との交差に関する技術的課題を作業部会で解決し、鈴木町すり付けの整備に向けた取組の推進を図ります。
- ・川崎縦貫道路の整備については、第3期実行計画においてもⅠ期事業の整備促進及びⅡ期計画の早期具体化に向けた取組を実施していきます。

3 臨海部における戦略的な土地利用の促進と神奈川口構想の推進 【進捗状況区分 3*】

【主な実施結果】

臨海部の戦略的な土地利用誘導

- ・川崎臨海部土地利用誘導ガイドラインを平成21年3月に策定し、ガイドラインに基づいて戦略拠点である殿町3丁目地区や重点整備地区である水江地区等をはじめとした土地利用誘導を行いました。また、地区カルテによって地区課題の可視化や情報共有化を行うとともに、不法投棄対策や交通環境改善など、個別の課題解決アクションを実施しました。
- ・地域再生計画に基づき、市有財産を有効に活用して、臨海部の産業再生・活性化に資する民間事業者に対する土地の貸付を適正に実施しました。

環境・エネルギー・ライフサイエンス分野の先端産業の創出と集積に向けた「先端産業創出支援制度（イノベート川崎）」の活用

- ・先端産業創出支援制度（イノベート川崎）等を活用した企業誘致を展開し、エリーパワー株、(財)実験動物中央研究所が進出するなど、環境・エネルギー・ライフサイエンス分野の先端産業の創出・集積を推進しました。また、企業立地情報ホームページ「かわさき工場立地情報」やパンフレット等企業誘致ツールを活用した積極的な情報提供を行うとともに、市内企業、不動産業界、金融機関等に対するヒアリングによる企業動向等の情報収集に努め、適正な産業集積を推進しました。

川崎殿町・大師河原地域の拠点整備

- ・都市計画手続をはじめとする基盤整備を進めるとともに、殿町3丁目地区の中核施設の整備や、関係機関と連携した立地誘導など、臨海部の戦略的な拠点形成に向けた取組を推進しました。

羽田空港再拡張・国際化への対応と羽田連絡道路の整備

- ・国への貸付を行った結果、平成22年10月21日の羽田空港新設滑走路の供用開始や10月31日の国際定期便就航が実現し、市民の海外渡航の際の利便性の向上等、本市経済の活性化の推進に寄与しました。
- ・羽田連絡道路については、関係機関の合意形成が困難な状況であるため、ルート・構造の絞り込みについて、一定の進展が図れず調査の実施には至りませんでした。羽田臨空都市懇談会において、羽田空港を核としたまちづくりや空港周辺のアクセスについて、関係機関と意見交換を行うとともに、京浜臨海部基盤施設検討会における、ルート・構造の絞り込みに向け、関係機関と協議、調整を行いました。

アクションプログラム

浜川崎駅周辺地域の拠点整備

- ・浜川崎駅周辺地域については、基礎調査を実施し、関係機関等との協議・調整による土地利用転換動向把握、都市基盤整備の適切な誘導を行いました。小田栄西地区については、県立南高校跡地利用について、地域意向を把握し、神奈川県との調整を行うとともに、民間事業者による開発協議の調整等を行いました。引き続き、整備計画に沿った適切な土地利用を誘導していきます。

【課題と第3期実行計画における取組】

- ・「臨海部における戦略的な土地利用の促進と神奈川口構想の推進」は、概ね順調に進んでおり、引き続き、国際競争力を有する拠点の形成を目指し、土地利用の適切な誘導及び企業等の誘致を図ります。また、羽田連絡道路の整備に向け、ルート・構造の絞込みの検討を促進させるため、関係機関等との調整・協議についても引き続き行います。

施策計画名	現状	目 標			
		2008(平成20)年度	2009(平成21)年度	2010(平成22)年度	2011(平成23)年度以降

アクションプログラム：都市拠点の整備【達成状況区分：3*】

施策計画名	現状	2008(平成20)年度	2009(平成21)年度	2010(平成22)年度	2011(平成23)年度以降
<p>○ 川崎駅周辺地区の整備</p> <p>民間活力を活かした商業、業務、文化機能や都市型住宅機能の整備を進めるとともに、駅東西の回遊性の向上とバリアフリー化など総合的な取組により、魅力と活力にあふれた本市の広域拠点の形成を推進します。</p>	<p>(西口地区)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●川崎町田線電線共同溝整備・道路築造工事 ●川崎駅西口階段部エスカル設置工事 <p>(駅周辺総合整備)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●川崎駅東口駅前広場再編整備に係る基本設計・実施設計 ●東西連絡歩道橋実施設計 <p>(北口自由通路等整備)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●基本設計(測量・地質調査等) 	<ul style="list-style-type: none"> ●川崎駅北口ペDESTリアンデッキ(自由通路連結含む)基本設計 ●大宮町幸町線歩道整備など基盤施設等整備 ●西口駅前広場整備完成 ●大宮中緑地用地取得 ●川崎駅東口駅前広場再編実施設計 ●東西連絡歩道橋整備着手 ●川崎駅北側歩行者動線整備基本設計 ●施設設計 	<ul style="list-style-type: none"> ●川崎駅北口ペDESTリアンデッキ(自由通路連結含む)詳細設計 ●中幸町ポケットパーク用地取得、基本設計 ●ミューザ・C地区連結ペDESTリアンデッキ基本設計 ●川崎駅東口駅前広場再編整備 ●東西連絡歩道橋整備完了 ●川崎駅北側歩行者動線整備詳細設計 ●施設設計 ●工事着手 ●用地取得 	<ul style="list-style-type: none"> ●川崎駅北口ペDESTリアンデッキ(自由通路連結含む)整備 ●中幸町ポケットパーク実施設計 ●ミューザ・C地区連結ペDESTリアンデッキ詳細設計 ●川崎駅東口駅前広場再編整備完了 ●川崎駅北側広場歩行者動線整備用地取得 ●工事 	<p>事業推進</p> <p>●工事完了(2011年度)</p>

第2期実行計画
実施結果

達成状況区分
3*

(参考)当初の目標
に対する達成状況

達成状況区分
4

・北口自由通路整備については、費用負担に関する国のルール化策定(要綱策定)の遅れ等の外的要因から、目標とした整備着手には至りませんでした。JRとの協議・調整を推進し、整備に向けた環境を整えました。

・川崎駅東口駅前広場再編整備、大宮中幸町線歩道整備、東西連絡歩道橋整備、川崎町田線及び西口広場整備が完了しました。

・中幸町ポケットパークは、用地取得には至っていませんが、調整は進んでいます。川崎駅北口ペDESTリアンデッキは整備スケジュールの見直しにより、関係者との調整を進めています。ミューザ・C地区連結ペDESTリアンデッキは、関係事業者及び関係地権者と調整を進めています。

【環境等の変化・課題等】

・北口自由通路については、自由通路整備の費用負担に関する国のルール化策定(要綱策定)の遅れや、駅店舗展開等に関するJRとの協議に時間を要したことから、概略設計着手が遅れました。

・東西連絡歩道橋整備については、支障物等の排除に時間を要しました。

・川崎駅北側歩行者動線整備における北側広場の用地取得については、北口自由通路の工事の進捗を鑑み、より適切な時期に用地交渉を行うこととしました。また、中幸町ポケットパーク整備については、位置選定等に時間を要し、ミューザ・C地区連結ペDESTリアンデッキの整備については、C地区建築物との調整に伴う予備設計が必要となりました。

【変更後の目標】

・北口自由通路については、2010年度の目標を「概略設計による整備概要取りまとめ」に変更しました。

・東西連絡歩道橋整備については、2010年度完成に目標を変更しました。

・川崎駅北側歩行者動線整備における北側広場の用地取得については、2010年度の目標を「整備に係る調整」に変更しました。また、中幸町ポケットパーク整備については、2010年度の目標を「用地取得に向けた調整」に変更し、ミューザ・C地区連結ペDESTリアンデッキの整備については、2010年度の目標を「予備設計」に変更しました。

施策計画

施策計画名	現 状	目 標			
		2008(平成20)年度	2009(平成21)年度	2010(平成22)年度	2011(平成23)年度以降
<p>○ 新川崎・鹿島田駅周辺地区の整備</p> <p>商業・業務機能、都市型住宅機能の導入と研究開発機能の拡充をめざし、民間開発を適切に誘導するとともに、都市基盤施設整備を進め、安全で魅力ある地域生活拠点の形成を進めます。</p>	<p>(新川崎地区)</p> <p>●都市基盤整備工事</p> <p>①都市基盤実施設計</p> <p>②鹿島田跨線歩道橋設置実施設計</p> <p>③公園緑地構想策定</p> <p>●新川崎地区地区計画に基づく土地利用誘導</p> <p>(鹿島田地区)</p> <p>●事業計画への権利者の同意取得</p> <p>●施行認可</p>	<p>●都市基盤整備工事</p> <p>①都市基盤実施設計</p> <p>②鹿島田跨線歩道橋設置工事</p> <p>③公園実施設計</p> <p>●新川崎地区地区計画に基づく土地利用誘導</p> <p>●権利変換計画への権利者の同意取得</p> <p>●権利変換認可</p> <p>●周辺市街地初期まちづくりの推進</p>	<p>●都市基盤整備工事</p> <p>③公園緑地整備工事</p> <p>●施設建築工事</p> <p>●公共施設工事</p>	<p>●都市基盤整備工事完了</p>	<p>継続実施</p> <p>●施設建築工事(2012年度完成)</p> <p>事業推進</p>

第2期実行計画
実施結果

達成状況区分
3*

(参考)当初の目標
に対する達成状況

達成状況区分
4

・鹿島田駅西部地区については、予定していた医療施設の撤退等により、権利者の同意取得に至りませんでした。今後も引き続き権利者調整を実施し、早期に権利変換計画認可を取得し、施設建築(建物)と公共施設(道路、電線共同溝)の工事に着手します。

・新川崎地区整備事業については、地区計画の策定等による適切な民間開発の誘導により、地域生活拠点にふさわしい土地利用転換が進むとともに、計画していた道路と公園の整備が完了しました。また、鹿島田跨線歩道橋整備については、関係者協議等に時間を要したことで、遅れが生じていますが、2010年度には工事着手となりました。

【環境等の変化・課題等】

・鹿島田駅西部地区については、予定していたテナントの撤退に伴う設計変更から、権利者の同意協議に時間を要しました。

・鹿島田跨線歩道橋設置工事に関し、市、JR東日本及びJR貨物との3者協定の内容について、JR各社との合意形成の遅れから、協定締結までに時間を要し、本体工事の着手が遅れました。また、このことに伴い、交通広場整備等の着手を先送りすることとなりました。

【変更後の目標】

・鹿島田駅西部地区については、2010年度の目標を「事業変更認可の同意取得、事業変更認可」、「権利変換計画への権利者の同意取得、権利変換認可」に目標を変更しました。

・鹿島田跨線歩道橋設置工事については、2010年度の目標を「都市基盤整備工事の推進」に変更しました。

施策計画

施策計画名	現状	目 標			
		2008(平成20)年度	2009(平成21)年度	2010(平成22)年度	2011(平成23)年度以降
<p>○ 小杉駅周辺地区の整備（JR横須賀線・武蔵小杉新駅の整備）</p> <p>民間開発の適切な誘導と支援により、都市型住宅など都市機能の集積を推進し、本市の新たな玄関口にふさわしい都市拠点の形成を推進します。さらに、小杉駅周辺地区の都市機能の向上などを図るためJR横須賀線・武蔵小杉新駅整備を推進します。</p>	<p>●小杉駅周辺地区再開発等事業</p> <p>①グランド地区：整備促進</p> <p>②南口地区西街区：整備促進（変電所）</p> <p>③南口地区東街区：協議調整</p> <p>④中丸子地区：B地区一部完了・整備促進</p> <p>⑤小杉町3丁目中央地区：都市計画手続</p> <p>⑥小杉町3丁目東地区：準備組合設立</p> <p>●小杉駅北側地区を含めた小杉駅周辺地区将来構想の策定</p> <p>●JR横須賀線・武蔵小杉新駅工事着手、施行</p> <p>●新駅交通広場等の関連基盤整備詳細設計</p> <p>●新駅関連用地取得</p> <p>●南武線武蔵小杉駅北口エレベーター整備完了</p> <p>●エリアマネジメント事業実施支援の検討</p> <p>●小杉駅周辺地区都市景観の協議・調整</p>	<p>●小杉駅周辺地区再開発等事業</p> <p>①グランド地区：完了</p> <p>②南口地区西街区：整備促進（事業計画等変更）</p> <p>③南口地区東街区：組合設立認可、権利変換認可</p> <p>④中丸子地区：B地区及びC-1地区完了</p> <p>⑤小杉町3丁目中央地区：都市計画決定、組合設立認可</p> <p>⑥小杉町3丁目東地区：準備組合支援</p> <p>●都市計画マスタープランまちづくり推進地域別構想策定及びまちづくりの誘導</p> <p>●JR横須賀線・武蔵小杉新駅工事施行</p> <p>●新駅交通広場等の関連基盤整備</p> <p>●人道地下通路整備</p> <p>●エリアマネジメント事業実施支援</p> <p>●小杉駅周辺地区都市景観の協議・調整</p>	<p>●小杉駅周辺地区再開発等事業</p> <p>①グランド地区：新中原市民館開館</p> <p>②南口地区西街区：整備促進（本体工事着手）</p> <p>③南口地区東街区：工事着手</p> <p>④中丸子地区：C地区等の整備促進</p> <p>⑤小杉町3丁目中央地区：権利変換認可、工事着手</p> <p>⑥小杉町3丁目東地区：再開発事業、都市計画決定</p> <p>●「戦略的誘導地区」のまちづくりの誘導</p> <p>●JR横須賀線・武蔵小杉新駅工事施行、新駅開業</p> <p>●新駅交通広場等の関連基盤整備完了</p> <p>●人道地下通路整備完了</p>	<p>●小杉駅周辺地区再開発等事業</p> <p>②南口地区西街区：整備促進</p> <p>③南口地区東街区：整備促進</p> <p>④中丸子地区：C地区等の整備促進</p> <p>⑤小杉町3丁目中央地区：整備促進</p> <p>⑥小杉町3丁目東地区：組合設立</p> <p>●JR横須賀線・武蔵小杉新駅連絡通路関連工事完了</p>	<p>事業推進</p>

第2期実行計画
実施結果

達成状況区分
3*

(参考)当初の目標
に対する達成状況

達成状況区分
4

・2010年3月13日に横須賀線武蔵小杉新駅が開業し、あわせて交通広場等関連する基盤施設の整備を行い、小杉駅周辺地区の拠点機能の強化や市民の利便性向上を図ることができました。

・3か年のエリアマネジメント事業実施支援を通して、新しい住民自身によるコミュニティ形成やまちな環境保全、さらには安全安心なまちづくりへの取り組みを軌道に乗せることができました。

・再開発事業については、工事費の高騰や社会的な景気の後退などにより、小杉町3丁目東地区において組合の設立に至らない等多少の遅れはありましたが、各地区概ね明記した期日、内容どおりに目標を達成することができました。

また、都市計画マスタープラン小杉駅周辺まちづくり推進地域構想を策定するなど、新たな開発の意向等に適切に対応し、機動的にまちづくりの誘導を行いました。

【環境等の変化・課題等】

・横須賀線武蔵小杉新駅の連絡通路関連工事については、鉄道事業者との協議において、当初想定しなかった既存路線の運転保安確保に関する調整に時間を要したことや、関係地権者との合意形成に多くの時間を要しました。

・南口地区東街区及び小杉町3丁目中央地区・小杉町3丁目東地区については工事費の高騰や社会的な景気の後退により、権利者をはじめとする関係機関との協議に予想以上の時間を要しました。

【変更後の目標】

・横須賀線武蔵小杉新駅の連絡通路関連工事については、2010年度完了を2011年度完了に変更しました。

・南口地区東街区については2009年度の目標を「工事着手」から「権利変換認可」に変更、小杉町3丁目中央地区については「権利変換認可、工事着手」から「組合設立等認可」に変更しました。

・南口地区東街区及び小杉町3丁目中央地区については2010年度の目標を「権利変換認可、工事着手」に変更しました。また、小杉町3丁目東地区については、2009・2010年度の目標を「準備組合支援」に目標を変更しました。

施策計画

施策計画名	現状	目 標			
		2008(平成20)年度	2009(平成21)年度	2010(平成22)年度	2011(平成23)年度以降
<p>○ 溝口駅南口広場の整備</p> <p>溝口駅の交通結節機能の強化や利便性向上などを図るため、南口広場やペDESTリアンデッキの整備を推進します。</p>	<p>● 溝口駅南口駅前広場整備の推進</p>	<p>● ペDESTリアンデッキの完成</p> <p>● 駅前広場の用地取得</p>	<p>→</p>	<p>● 駅前広場の整備着手</p>	<p>● 駅前広場の整備完了(2011年度)</p>
<p>第2期実行計画 実施結果</p> <p>達成状況区分 3</p>	<p>・ペDESTリアンデッキの整備を完了するとともに、駅前広場施設整備の方針決定、用地の取得や建物の除却を行い、駅前広場整備に着手しました。</p>				
<p>○ 宮前平・鷺沼駅周辺地区の整備</p> <p>交通広場などの駅周辺の交通環境の向上に向けた検討などを進め、拠点地区の魅力の増進を図ります。</p>	<p>● 鷺沼駅周辺交通環境等の現況調査</p>	<p>● 鷺沼駅駅前広場及び周辺交通環境改善に関する検討調査</p>	<p>● 鷺沼駅駅前広場及び周辺交通環境改善に関する基本方針案の検討</p>	<p>● 鷺沼駅駅前広場及び周辺交通環境改善に関する基本方針の策定</p>	<p>● 基本方針に基づく基本計画等の策定</p>
<p>第2期実行計画 実施結果</p> <p>達成状況区分 3*</p> <p>(参考)当初の目標に対する達成状況 達成状況区分 4</p>	<p>・地域の交通課題の調査・検討を行うとともに、交通環境改善の一環として、鉄道事業者とともに新たな改札口の設置に向けた取組を推進しました。また、2010年度に策定を予定していた鷺沼駅前広場及び周辺交通環境改善に関する基本方針については、このような環境変化を踏まえ策定に取組むこととしました。</p> <p>【環境等の変化・課題等】</p> <p>・鷺沼駅(仮称)北口改札の設置に伴い、既存駅前広場周辺の利用状況も大きく変化することが想定されたため、基本方針の策定にあたっては、北口改札設置に伴う影響を調査・検証を行う必要が生じました。</p> <p>【変更後の目標】</p> <p>・2010年度目標を「北口改札供用開始に向けた関係機関調整」及び「交通量調査の実施」に変更しました。</p>				
<p>○ 登戸・向ヶ丘遊園駅周辺地区の整備</p> <p>安全で快適な市街地の整備を推進し、魅力と活力にあふれた市北部の拠点地区の形成を推進します。さらに、鉄道により移動経路が分断されている向ヶ丘遊園駅周辺の連絡通路等の整備により、回遊性の向上を図ります。</p>	<p>● 都市計画道路登戸1号線、登戸3号線の整備</p> <p>● 登戸駅交通広場周辺の整備</p> <p>● 小田急線複々線化計画を踏まえた整備手法の検討</p>	<p>● 都市計画道路登戸1号線、登戸3号線の整備</p> <p>● 登戸駅交通広場周辺の整備</p> <p>● 整備手法の方針策定</p> <p>● 調査設計</p>	<p>→</p> <p>● 実施設計</p>	<p>→</p> <p>● 支障物移転</p>	<p>→</p> <p>● 本体工事着手(2011年度)</p>
<p>第2期実行計画 実施結果</p> <p>達成状況区分 3*</p> <p>(参考)当初の目標に対する達成状況 達成状況区分 3</p>	<p>・登戸土地区画整理事業は、建築物等の移転及び公共施設等整備について概ね順調に進捗し、成果指標として示す計画値の仮換地指定率(累計)が、59%を超えました。</p> <p>・向ヶ丘遊園駅連絡通路等整備事業は、整備に伴い狭隘化する周辺道路等の対処方針の決定に向けた関係者との協議・調整に時間を要しましたが、事業を円滑に進めるため「施行協定」の締結には至りませんでした。周辺道路等の整備を含めた実施設計の取りまとめを行い、地元説明会を実施するなど、事業化に向けた環境を整えました。</p> <p>【環境等の変化・課題等】</p> <p>・向ヶ丘遊園駅連絡通路等整備事業は、自由通路整備の費用負担に関する国のルール化策定(要綱策定)の遅れから、小田急電鉄との負担協議等に時間を要しましたが、地元説明会を行った上で、施行協定締結、支障物移転、本体工事着手を進める方が効率的・効果的であることから、2011年度の本体工事着手に影響が出ない中で目標を変更しました。</p> <p>【変更後の目標】</p> <p>・2010年度の目標を「整備計画の取りまとめ」に変更しました。</p>				

施策計画

施策計画名	現状	目 標			
		2008(平成20)年度	2009(平成21)年度	2010(平成22)年度	2011(平成23)年度以降
○ 新百合ヶ丘駅周辺地区の整備 駅周辺の交通環境に関する課題に適切に対応し、魅力ある広域拠点の形成を推進します。	●地区交通メ ニュー確認 ●交通課題等検 討調査の実施	●北口エレベ ーター基本調査 (1基) ●区画街路9号線 改良に向けた取 組推進	●北口エレベ ーター実施設計 (1基)	●北口エレベ ーター整備完了 (1基)	●地区交通環境 調査に基づく事業 推進

第2期実行計画
実施結果

達成状況区分
3

・北口エレベーターは、地域要望等を踏まえながら設計を進めるなどバリアフリー化を推進し、区画街路9号線については、拡幅が必要な区間について、安全に通行できる空間を確保しました。また、尻手黒川線(Ⅲ期)の整備に伴う駅周辺の交通流動の変化を把握するため、交通量調査を実施しました。

アクションプログラム：広域交通体系の整備と交通ネットワークの形成【達成状況区分：3*】

施策計画名	現状	2008(平成20)年度	2009(平成21)年度	2010(平成22)年度	2011(平成23)年度以降
○ 幹線道路網の整備(街路・道路) 都市活動を支える都市計画道路や国道・県道などの道路について、道路整備プログラムに基づき、整備効果の高い箇所を選定し、計画的かつ重点的な整備を推進します。	(都市計画道路) ●2007年度整備 箇所:15路線23工 区 (国・県道) ●2007年度整備 箇所:8路線10工 区 (道路計画) ●道路整備プロ グラムの策定	●道路整備プロ グラムに基づく重 点的な道路整備 の推進 ①完成 向ヶ丘遊園駅管 生線(東生田) 他4路線(4工区) ②着手 尻手黒川線(Ⅳ 期)他1路線(1 工区) ●道路整備プロ グラムに基づく重 点的な道路改良 事業の推進 ①完成 国道409号(二 子)他1路線 (1工区) ②着手 県道横浜上麻 生(下麻生) ●維持・更新、環 境など今後の道 路整備のあり方 の課題整理 ●各種交通量調 査等に基づく道 路整備プログラムの 進行管理	●道路整備プロ グラムに基づく重 点的な道路整備 の推進 ①完成 尻手黒川線(Ⅲ 期)他1路線(1 工区) ②着手 宮内新横浜線 (宮内) ●道路整備プロ グラムに基づく重 点的な道路改良 事業の推進 ①完成 県道上麻生連 光寺(片平)他2 路線(2工区) ●今後の道路整 備のあり方の方 向性の検討 ●道路整備プロ グラムの進行管 理と周辺環境等 を踏まえた対応方 針の検討	●道路整備プロ グラムに基づく重 点的な道路整備 の推進 ①完成 向ヶ丘遊園駅管 生線(白井坂) 他3路線(3工区) ②着手 荻宿小田中線 (Ⅱ期)他1路線 (1工区) ●道路整備プロ グラムに基づく重 点的な道路改良 事業の推進 ①完成 県道横浜生田 (管生) ②着手 国道409号(小 杉) ●今後の道路整 備のあり方の方 向性の取りまとめ ●道路整備プロ グラムの達成状 況評価と適切な 計画の見直し	事業推進

第2期実行計画
実施結果

達成状況区分
3*

(参考)当初の目標
に対する達成状況

達成状況区分
4

・小杉管線(中原)、尻手黒川線(Ⅲ期)、世田谷町田(高石)など7工区が完成し、尻手黒川線(Ⅳ期)、宮内新横浜線(宮内)及び菅早野線(下麻生)、国道409号(小杉)の4工区について事業に着手しました。
・既成市街地における事業用地の確保は困難を要しますが、関係部署と綿密な取得計画をたてた上で、調整を行ったため、概ね予定通り事業用地の取得を行うことができました。
・道路整備のあり方について、基本方針の局内素案を取りまとめました。また、道路整備プログラムについては進行管理を行うとともに、後期の計画見直しを行いました。
【環境等の変化・課題等】
・宮内新横浜線(宮内工区)は、都市計画変更に伴う交通管理者、河川管理者等との詳細な協議を進める中で、新たに構造等、技術的な検討が生じ、不測の時間を要したため。
・国道409号(二子工区)は、用地交渉が難航し、合意が得られなかったため。
・世田谷町田(高石工区)は、電線共同溝のケーブル布設工事において、占用業者との調整に時間を要したため。
・尻手黒川線(Ⅲ期)は、供用後に予測される振動・騒音等の増加への対策について、周辺住民との協議、調整に時間を要したため。
・尻手黒川線(Ⅳ期)は、事業を円滑に進めるため一部区間の都市計画の変更を行う必要が生じ、時間を要したため。
【変更後の目標】
・宮内新横浜線(宮内)は平成2009年度着手を平成2010年度着手に変更しました。
・尻手黒川線(Ⅲ期)は、2009年度の完成を2010年度に変更しました。
・尻手黒川線(Ⅳ期)は、2008年度着手を2009年度着手に変更しました。
・国道409号(二子工区)及び世田谷町田(高石工区)は、2008年度完成を2009年度に変更しました。

施策計画

施策計画名	現状	目 標			
		2008(平成20)年度	2009(平成21)年度	2010(平成22)年度	2011(平成23)年度以降
<p>○都市計画道路網の見直し</p> <p>社会経済情勢を踏まえた、適切な都市計画道路網への対応に向けた見直しを推進します。</p>	<p>●都市計画道路網のあり方について、川崎市都市計画審議会最終答申</p>	<p>●都市計画道路網見直し方針の策定</p> <p>●見直し候補5路線(7区間)の検討・調整</p> <p>●宮内新横浜線(国道409号～多摩川区間)都市計画変更</p>		<p>●見直し候補5路線(7区間)の検討・調整を踏まえ、順次、都市計画手続き</p>	継続実施
<p>第2期実行計画実施結果</p> <p>達成状況区分 3</p>	<p>・廃止候補4路線(6区間)につきましては、2008年6月に行政方針である「都市計画道路網の見直し方針」を策定し、都市計画審議会に向けて、市民の理解を得るために説明会を実施するなど、適切な周知・手続きを行い、円滑に事業を推進することができました。さらに、手続きを進めるなか、地域住民より寄せられた課題解決に向け、関係部局と連携し、その要望に適切に対応することができました。</p>				
<p>○京浜急行大師線連続立体交差の推進</p> <p>渋滞解消、踏切事故解消、分断された地域の一体化による利便性の向上などに向けた京急大師線の連続立体交差を推進します。</p>	<p>●段階的整備区間(小島新田駅～東門前駅間)の整備推進</p>	<p>●段階的整備区間の整備推進</p> <p>●段階的整備区間以降の整備方針の調整・検討</p>	<p>●段階的整備区間の整備推進</p> <p>●段階的整備区間以降の整備方針の策定</p>	<p>●段階的整備区間の整備推進</p> <p>①産業道路の立体交差化の完成</p> <p>●段階的整備区間以降の整備方針に基づく対応</p>	<p>●段階的整備区間以降の整備方針に基づく取組の推進</p>
<p>第2期実行計画実施結果</p> <p>達成状況区分 3*</p> <p>(参考)当初の目標に対する達成状況</p> <p>達成状況区分 4</p>	<p>・産業道路の立体交差化完成を3年延伸し2013年度完成と修正しましたが、段階的整備区間の事業推進は概ね順調です。</p> <p>地域課題となっていた産業道路駅周辺の違法駐輪問題を沿線協議会を通じ、市民と協働して解決することができました。また、産業道路駅バスターミナル整備に伴って跡地利用範囲を変更するとともに、産業道路駅の駅舎設計の変更に着手し、利便性向上に努めることができました。</p> <p>段階的整備区間以降の整備方針を策定し、鈴木町すり付けの推進に向けて課題となっている国庫補助再算定については、国土交通省に対し地下式で整備することに合理的な理由があることを説明し、社会資本整備総合交付金を充当する方向で調整を図りました。また、川崎縦貫道路との交差協議については、川崎国道事務所、首都高と調整・協議を行い、交差に関する検討作業部会を立ち上げました。</p> <p>【環境等の変化・課題等】</p> <p>・支障となる東京電力送電設備の移設補償に対する租税上の取扱いについて、関係機関協議に不測の時間を要しました。また、産業道路踏切部において高速川崎縦貫線大師ジャンクション開業に向けた工事との近接競合や高速横浜羽田空港線への連絡路施行に伴う高さ制限範囲に当たり、施工条件が厳しくなり工事工程に影響が生じました。</p> <p>【変更後の目標】</p> <p>・2010年度の目標について、段階的整備区間の整備推進を「段階的整備の推進(仮設工、掘削工、用地取得)」、段階的整備区間以降の整備方針に基づく対応を「鈴木町すり付け(鈴木町～東門前間)推進」、及び「工事進捗にあわせ協議会を開催(意見聴取・協議・承認)」に変更しました。</p>				
<p>○JR南武線連続立体交差の推進</p> <p>渋滞解消、踏切事故解消、分断された地域の一体化による利便性の向上などに向けたJR南武線の連続立体交差化を推進します。</p>	<p>●検討</p>	<p>●連続立体交差事業の事業実施に向けた調査・検討</p>		<p>●事業実施に向けた、JRや国、横浜市など関係機関との調整</p>	取組の推進
<p>第2期実行計画実施結果</p> <p>達成状況区分 3</p>	<p>・関係機関と協議調整を行うとともに、検討案の精査を行い、深度化を図りました。</p>				

施策計画

施策計画名	現状	目 標			
		2008(平成20)年度	2009(平成21)年度	2010(平成22)年度	2011(平成23)年度以降
<p>○ 川崎縦貫道路の整備</p> <p>本市の都市機能強化に向けた川崎縦貫道路の整備を促進します。</p>	<p>● I 期事業の整備促進</p> <p>①川崎縦貫道路 I 期の一部供用(浮島～殿町間)</p> <p>● II 期計画の早期具体化に向けた取組の推進</p> <p>● 国道409号(大師ジャンクション～国道15号間)街路先行整備等の促進</p>	<p>● I 期事業の整備促進</p> <p>①大師ジャンクション(横浜方向出入口)部分供用開始</p> <p>● II 期計画の早期具体化に向けた取組の推進</p> <p>● 国道409号(大師ジャンクション～国道15号間)街路先行整備等の促進</p>	<p>● I 期事業の整備促進</p>	<p>● I 期事業の整備促進</p> <p>①殿町～大師ジャンクション間供用開始</p>	<p>● I 期事業の整備促進</p> <p>● II 期計画の早期具体化に向けた取組の推進</p> <p>事業促進</p>
<p>第2期実行計画 実施結果</p> <p>達成状況区分 2</p>	<p>・I 期事業については、殿町から大師ジャンクション間が当初予定より早く開通するなど、目標を上回って達成することができました。</p> <p>・II 期計画については、外環道東名以南との調整を含め、幅広く調査・検討を実施するとともに、関係機関と意見交換を実施しました。</p> <p>・国道409号の街路先行整備等については、中瀬付近の電線共同溝工事が完了するなど、整備を促進しました。</p> <p>・第3期実行計画においても I 期事業の整備促進及び II 期計画の早期具体化に向けた取り組みを実施していきます。</p>				
<p>○ 川崎縦貫高速鉄道線の整備</p> <p>首都圏における広域鉄道ネットワークの形成に寄与するとともに、市内交通の円滑化と市民の利便性向上を図る川崎縦貫高速鉄道線整備事業の取組を進めます。</p>	<p>●新百合ヶ丘駅から武蔵小杉駅に接続する計画の推進</p>	<p>●新百合ヶ丘駅から武蔵小杉駅に接続する計画での事業推進</p> <p>●国や関連鉄道事業者等との協議・調整</p>			<p>事業推進</p>
<p>第2期実行計画 実施結果</p> <p>達成状況区分 3</p>	<p>・効率的、効果的な事業に向けて小杉接続計画の深度化を図るとともに、幅広い視点から事業推進に向けた検討を行うため検討委員会を設置し、6回の開催を通じて、現計画の検証や新技術の導入検討等を行いました。また、国や関連鉄道事業者等との協議・調整を実施するとともに、国や県の予算編成に対し要請を行いました。</p>				
<p>アクションプログラム：臨海部における戦略的な土地利用の促進と神奈川口構想の推進【達成状況区分：3*】</p>					
<p>○ 臨海部の戦略的な土地利用誘導</p> <p>臨海部立地企業情報の把握と一元的な管理及び分析、戦略的なマネジメントの展開により、産業基盤の強化を図るとともに、既存企業の活性化及び新規企業の立地誘導を推進します。水江町地内公共用地については、地域再生計画に基づき有効活用を推進します。</p>	<p>(戦略的なマネジメント)</p> <p>●地域全体の課題整理</p> <p>●土地利用誘導ガイドライン素案の作成</p> <p>●地区別カルテの作成準備、課題解決アクションの検討</p> <p>●地域再生計画の認定</p> <p>●地域再生計画に基づき民間事業者への貸付等準備</p>	<p>●立地企業の動向把握、情報管理システムの構築</p> <p>●土地利用誘導ガイドラインの作成及びガイドラインに基づく誘導</p> <p>●地区別カルテの作成、課題解決アクションの一部実施</p> <p>●用地取得</p> <p>●公募等による民間事業者の選定</p> <p>●民間事業者との事業用定期借地契約等の締結</p>	<p>●情報の適切な管理・分析</p> <p>●土地利用誘導ガイドラインに基づく誘導</p> <p>●地区別カルテの更新、課題解決アクションの実施</p> <p>●民間貸付事業の推進</p>		<p>事業推進</p>
<p>第2期実行計画 実施結果</p> <p>達成状況区分 3</p>	<p>・川崎臨海部土地利用誘導ガイドラインを2009年3月に策定し、ガイドラインに基づいて戦略拠点である殿町3丁目地区や重点整備地区である水江地区等をはじめとした土地利用誘導を行いました。</p> <p>地区別カルテによって地区課題の可視化や情報共有化を行うとともに、不法投棄対策や交通環境改善など、個別の課題解決アクションを実施しました。</p> <p>・地域再生計画に基づき、市有財産を有効に活用して、臨海部の産業再生・活性化に資する民間事業者に対する土地の貸付を適正に実施し、事業目標を達成しました。</p>				

施策計画

施策計画名	現状	目 標			
		2008(平成20)年度	2009(平成21)年度	2010(平成22)年度	2011(平成23)年度以降
<p>○ 先端産業等の立地促進（再掲）</p> <p>新たに創設する先端産業創出支援制度を活用するなど、企業の誘致を推進し、市内先端産業の創出と集積を図ります。</p>	<p>●企業立地の促進</p> <p>●先端産業創出支援制度の創設に向けた調査・検討</p>	<p>●先端産業創出支援制度の創設及び同制度を活用した企業誘致の実施</p>	<p>●先端産業創出支援制度を活用した企業誘致の推進</p>		<p>事業推進</p>
<p>第2期実行計画 実施結果</p>	<p>達成状況区分</p> <p>3</p>	<p>・先端産業創出支援制度（イノベート川崎）等を活用した企業誘致を展開し、エリーパワー㈱、(財)実験動物中央研究所が進出するなど、環境・エネルギー・ライフサイエンス分野の先端産業の創出・集積を推進しました。</p> <p>・企業立地情報ホームページ「かわさき工場立地情報」やパンフレット等企業誘致ツールを活用した積極的な情報提供を行うとともに、市内企業、不動産業界、金融機関等に対するヒアリングによる企業動向等の情報収集に努め、適正な産業集積を推進しました。</p>			
<p>○ 川崎殿町・大師河原地域の拠点整備</p> <p>臨海部を先導する戦略的な拠点形成をめざし、神奈川口構想の実現に向けた取組を推進します。</p>	<p>●機能導入に向けた土地利用計画などの調査検討</p> <p>●関係機関等との協議調整</p> <p>●神奈川口構想にふさわしい企業等の誘致</p>	<p>●羽田連絡道路の整備を視野に入れた都市再生事業計画の策定</p> <p>●関係機関等との協議調整</p> <p>●事業推進方策の検討</p> <p>●神奈川口構想にふさわしい企業等の誘致</p>	<p>●都市計画手続</p>	<p>●民間活力を活用した基盤施設等の段階的整備への支援</p>	<p>事業推進</p>
<p>第2期実行計画 実施結果</p>	<p>達成状況区分</p> <p>3</p>	<p>・第2期実行計画期間においては、都市計画手続をはじめとする基盤整備を進めるとともに、殿町3丁目地区の中核施設の整備や、関係機関と連携した立地誘導など、臨海部の戦略的な拠点形成に向けた取組を推進しました。第3期実行計画期間においても引き続き取組を進め、国際競争力を有する拠点としての形成を図ります。</p>			
<p>○ 羽田空港再拡張・国際化への対応と羽田連絡道路の整備</p> <p>羽田空港の再拡張・国際化にあわせ、羽田連絡道路の整備により、臨海部の再生・活性化を推進するとともに、神奈川県、横浜市、川崎市の3団体の合意に基づき、羽田空港再拡張事業の費用の一部について貸付を行います。</p>	<p>●ルート・構造及び環境などの調査・検討</p> <p>●羽田空港再拡張事業の費用の一部について、国への無利子貸付</p>	<p>●ルート・構造及び環境などの調査・検討</p> <p>●羽田空港再拡張事業の費用の一部について、国への無利子貸付</p> <p>●再拡張・国際化に向けた対応</p>	<p>●道路概略設計</p> <p>●環境影響評価</p> <p>●都市計画手続</p>	<p>●現場調査等の実施</p>	<p>事業推進</p>
<p>第2期実行計画 実施結果</p> <p>(参考)当初の目標に対する達成状況</p>	<p>達成状況区分</p> <p>3*</p>	<p>達成状況区分</p> <p>4</p>	<p>・貸付を行った結果、2010年10月21日の羽田空港新設滑走路の供用開始や10月31日の国際定期便就航が実現し、市民の海外渡航の際の利便性の向上等、本市経済の活性化の推進に寄与しました。</p> <p>・殿町3丁目地区の進捗動向や羽田空港国際化の醸成、空港跡地利用の動向などを踏まえながら、羽田空港臨空都市懇談会など様々な機会を通じて、羽田連絡道路整備について関係機関の合意形成を図るとともに、京浜臨海部基盤施設検討会において、ルート・構造、事業主体を決定するなど、羽田連絡道路の実現に向け進めていきます。</p> <p>【環境等の変化・課題等】</p> <p>・関係機関との意見調整に時間を要していることや、空港跡地利用計画が具体化していないことによる羽田連絡道路との調整が進展しないことから、京浜臨海部基盤施設検討会において、ルート・構造の絞込みに至ってない状況です。</p> <p>【変更後の目標】</p> <p>・京浜臨海部基盤施設検討会におけるルート・構造の絞込みに向け、地元自治体として調査、検討を行うことし、2009年度・2010年度の目標を「関係機関等との協議、調整」に変更しました。</p>		

施策計画

施策計画名	現状	目標			
		2008(平成20)年度	2009(平成21)年度	2010(平成22)年度	2011(平成23)年度以降
<p>○ 浜川崎駅周辺地域の拠点整備 都市再生総合整備事業を活用し民間活力を活かした整備を進めるとともに、広域的視点から求められる機能立地に向け、大規模事業所の土地利用転換を適切に誘導し整備計画に沿ったまちづくりを推進します。</p>	<p>● 浜川崎駅周辺地域の事業計画の策定に向けた検討 ● 関係機関等との協議調整 ● 小田栄地区等の整備計画に沿ったまちづくりの誘導</p>	<p>● 浜川崎駅周辺地域の事業計画策定調査 ● 関係機関等との協議調整 ● 小田栄地区等の整備計画に沿ったまちづくりの誘導</p>	<p>● 土地利用計画等推進調査</p>	<p>→</p>	<p>事業推進</p>
<p>第2期実行計画実施結果</p>		<p>・浜川崎駅周辺地域については、基礎調査を実施し、関係機関等との協議・調整による土地利用転換動向把握、都市基盤整備の適切な誘導を行いました。小田栄西地区については、県立南高校跡地利用について、地域意向を把握し、神奈川県との調整を行うとともに、民間事業者による開発協議の調整等を行いました。引き続き、整備計画に沿った適切な土地利用を誘導していきます。</p>			
<p>達成状況区分</p>		<p>3</p>			